

平成 13 年度 佐賀大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

理工・農・文化教育学部 平成 13 年 2 月 25 日

- 理工学部は， [1] ~ [4] 数 I・II・III・A・B(120 分)
- 農学部は， [2], [3] の (1)(2)(3)(5), [5], [6] 数 I・II・A・B (120 分)
- 文化教育学部は， [7] ~ [10] 数 I・II・A・B(100 分)

[1] 2 次関数 $y = 4x^2 + 8mx + 4m$ について，以下の問いに答えよ．

- (1) この 2 次関数の最小値 l を， m の式で表せ．
- (2) (1) の l が正であるための m の値の範囲を求めよ．
- (3) m の値を変化させて，(1) の l が最も大きくなるときの m の値と，そのときの l の値を求めよ．
- (4) (1) の l に定数 a を加えて得られる m の関数を $n = f(m)$ とする．この関数のグラフが m 軸と 1 点で接するように， a の値を定めよ．

[2] 平面上のベクトル \vec{a}, \vec{b} は $|\vec{a}| = |\vec{b}| = 1$ をみたし， \vec{a} と \vec{b} のなす角 θ は $0^\circ < \theta < 180^\circ$ をみたすとする．また，ベクトル \vec{c}, \vec{d} は p, q, s, t を用いて

$$\vec{c} = p\vec{a} + q\vec{b}, \quad \vec{d} = s\vec{a} + t\vec{b}$$

と表されるとし， $\vec{a} + \vec{b} + \vec{c} + \vec{d} = \vec{0}$ が成立しているとする．

- (1) p と s の関係式，および q と t との関係式を求めよ．
- (2) $|\vec{c}| = 1$ のとき， p と q と $\cos \theta$ との関係式を求めよ．
- (3) $|\vec{d}| = 1$ のとき，(1) の結果を用いて， p, q と $\cos \theta$ との関係式を求めよ．
- (4) $|\vec{c}| = |\vec{d}| = 1$ のとき，

$$\vec{a} + \vec{c} = \vec{b} + \vec{d} = \vec{0} \quad \text{または} \quad \vec{a} + \vec{d} = \vec{b} + \vec{c} = \vec{0}$$

が成り立つことを，上の結果を用いて示せ．

3 1回の試行で事象 A が起こる確率が p ($0 < p < 1$) であるとする．この試行を n 回行うときに奇数回 A が起こる確率を a_n とする．

(1) a_1, a_2, a_3 を p で表せ．

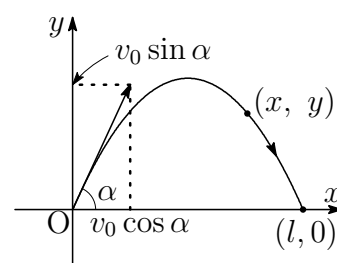
(2) $n \geq 2$ のとき, a_n を a_{n-1} と p で表せ．

(3) a_n を n と p で表せ．

(4) $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n$ の値を求めよ．

(5) $p = \frac{1}{2}$ のときの (3) の結果を用いて, $\sum_{k=0}^n {}_{2n}C_{2k}$ を n の式で表せ．

4 右の図のように, 原点 O から物体 P を, 水平面と角 α ($0^\circ < \alpha < 90^\circ$) をなす方向に, 速さ v_0 m/秒 ($v_0 > 0$) で投げたとき, 投げてから t 秒後の P の位置を (x, y) とする．空気抵抗を無視すると, x と y は g を正定数として $x = (v_0 \cos \alpha)t$, $y = (v_0 \sin \alpha)t - \frac{1}{2}gt^2$ と表される．



(1) P が正の時刻で x 軸に到達する位置を $(l, 0)$ とするとき, l を α, v_0, g で表せ．

(2) 正の時刻で x 軸に到達するまでに P が描く曲線と x 軸とで囲まれる図形の面積 S を α, v_0, g で表せ．

(3) v_0 を固定し, α を動かすとき, S の最大値を v_0, g で表せ．

5 (1) $10^{a-b} = \frac{10^a}{10^b}$ を用いて, $\log_{10} \frac{u}{v} = \log_{10} u - \log_{10} v$ を示せ．ただし, u, v は正の実数とする．

(2) 不等式 $\log_{10} 5x^2 - \log_{10}(x+1)^2 \geq 1$ をみたす x の値の範囲を求めよ．

6 関数 $f(x) = ax^3 + bx^2 + cx$ ($a > 0, b, c$ は実数) について, 以下の問いに答えよ．

(1) 方程式 $f(x) = 0$ が異なる 3 個の実解をもつための条件を, a, b, c を用いて表せ．

(2) $f(x)$ が $x = -1$ で極大値を, $x = 2$ で極小値をとるとき, 極大値および極小値を a を用いて表せ．

(3) $f(x)$ が (2) の条件をみたすとき, $f(x) = 0$ の 3 つの実解を求めよ．

7 6個の数字 $1, 2, 3, 4, 5, 6$ から重複を許して4個を取り出し, それらを並べて4桁の整数をつくる. 千の位, 百の位, 十の位, 一の位の数字を, それぞれ, a, b, c, d とおく. 次のような整数は, それぞれ何通りできるか.

(1) $a < d$

(2) $a < b \leq c < d$

8 $0^\circ \leq \theta < 360^\circ$ のとき, 関数 $y = \sin^2 \theta + 2 \sin \theta \cos \theta - \cos^2 \theta$ について, 次の問いに答えよ.

(1) y の最大値, 最小値と, そのときの θ の値を求めよ.

(2) この関数のグラフをかけ.

9 正の数 p, q が $q < p^2$ を満たしているとする. 2次関数 $y = x^2$ のグラフを F とし, F を x 軸方向に p , y 軸方向に q だけ平行移動したものを G とする. F, G と y 軸で囲まれた図形のうち, F と G の交点を通り, x 軸に平行な直線の上側, 下側にある部分の面積をそれぞれ S_1, S_2 とする. $S_1 < S_2$ であるとき, 点 (p, q) の存在範囲を図示せよ.

10 0でない複素数 z について, 次の問いに答えよ.

(1) z の絶対値を r , 偏角を θ とするとき, $z + \frac{1}{z}$ の実部と虚部を, r と θ を用いて表せ.

(2) n を正の整数とする. $z + \frac{1}{z}$ が実数または純虚数ならば, $z^n + \frac{1}{z^n}$ も実数または純虚数であることを証明せよ.

正解

$$\boxed{1} \quad (1) \quad \begin{aligned} y &= 4x^2 + 8mx + 4m \\ &= 4(x+m)^2 - 4m^2 + 4m \end{aligned}$$

よって、最小値 $l = -4m^2 + 4m$

$$(2) \quad l > 0 \text{ より } -4m^2 + 4m > 0 \quad \text{ゆえに } m(m-1) < 0$$

よって $0 < m < 1$

$$(3) \quad (1) \text{ の結果から } \begin{aligned} l &= -4(m^2 - m) \\ &= -4\left(m - \frac{1}{2}\right)^2 + 1 \end{aligned}$$

よって、 $m = \frac{1}{2}$ のとき、最大値 $l = 1$

$$(4) \quad (3) \text{ の結果から、} n = f(m) \text{ の最大値は } a + 1$$

よって、 $y = f(m)$ のグラフが m 軸に接するとき

$$a + 1 = 0 \quad \text{すなわち } a = -1$$

2 (1) $\vec{c} = p\vec{a} + q\vec{b}$, $\vec{d} = s\vec{a} + t\vec{b}$ を $\vec{a} + \vec{b} + \vec{c} + \vec{d} = \vec{0}$ に代入すると

$$(1+p+s)\vec{a} + (1+q+t)\vec{b} = \vec{0}$$

\vec{a} と \vec{b} のなす角 θ が $0^\circ < \theta < 180^\circ$ であるから, \vec{a} と \vec{b} は 1 次独立である.

よって $1+p+s=0, 1+q+t=0$

(2) $\vec{c} = p\vec{a} + q\vec{b}$ より $|\vec{c}|^2 = |p\vec{a} + q\vec{b}|^2 = p^2|\vec{a}|^2 + 2pq\vec{a}\cdot\vec{b} + q^2|\vec{b}|^2$

$|\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = 1$, $\vec{a}\cdot\vec{b} = |\vec{a}||\vec{b}|\cos\theta = \cos\theta$ であるから

$$p^2 + 2pq\cos\theta + q^2 = 1 \quad \dots \textcircled{1}$$

(3) $\vec{d} = s\vec{a} + t\vec{b}$ より, (2) と同様にして

$$s^2 + 2st\cos\theta + t^2 = 1$$

(1) の結果から, $s = -(p+1)$, $t = -(q+1)$ これを上式に代入すると

$$(p+1)^2 + 2(p+1)(q+1)\cos\theta + (q+1)^2 = 1 \quad \dots \textcircled{2}$$

(4) ② から ① の辺々を引くと

$$2(p+q+1)(1+\cos\theta) = 0$$

$0^\circ < \theta < 180^\circ$ より, $1+\cos\theta \neq 0$ であるから

$$p+q+1=0 \quad \text{ゆえに} \quad q = -p-1 \quad \dots \textcircled{3}$$

③ を ① に代入すると $p^2 + 2p(-p-1)\cos\theta + (-p-1)^2 = 1$

したがって $2p(p+1)(1-\cos\theta) = 0$

$0^\circ < \theta < 180^\circ$ より, $1-\cos\theta \neq 0$ であるから

$$2p(p+1) = 0 \quad \text{すなわち} \quad p = -1, 0$$

このとき, ③ および (1) の結果から

$$(p, q, s, t) = (-1, 0, 0, -1), (0, -1, -1, 0)$$

(i) $(p, q, s, t) = (-1, 0, 0, -1)$ のとき $\vec{c} = -\vec{a}$, $\vec{d} = -\vec{b}$

(ii) $(p, q, s, t) = (0, -1, -1, 0)$ のとき $\vec{c} = -\vec{b}$, $\vec{d} = -\vec{a}$

(i), (ii) より $\vec{a} + \vec{c} = \vec{b} + \vec{d} = \vec{0}$ または $\vec{a} + \vec{d} = \vec{b} + \vec{c} = \vec{0}$

3 (1) $q = 1 - p$ とおく .

a_1 は 1 回の試行で事象 A が 1 回起こる確率であるから $a_1 = p$

a_2 は 2 回の試行で事象 A が 1 回起こる確率であるから

$$a_2 = {}_2C_1 pq = 2p(1 - p)$$

a_3 は 3 回の試行で事象 A が 1 回または 3 回起こる確率であるから

$$a_3 = {}_3C_1 pq^2 + {}_3C_3 p^3 = 3p(1 - p)^2 + p^3 = p(4p^2 - 6p + 3)$$

(2) $n \geq 2$ のとき , n 回の試行で奇数回 A が起こるのは , 次の事象である .

(i) $n - 1$ 回までに奇数回 A が起こり , n 回目に A が起こらない .

(ii) $n - 1$ 回までに偶数回 A が起こり , n 回目に A が起こる .

(i) の確率は $a_{n-1} \cdot q$ (ii) の確率は $(1 - a_{n-1}) \cdot p$

(i) , (ii) の事象は互いに排反であるから

$$\begin{aligned} a_n &= a_{n-1} \cdot q + (1 - a_{n-1})p = (1 - p)a_{n-1} + p(1 - a_{n-1}) \\ &= (1 - 2p)a_{n-1} + p \end{aligned}$$

(3) (2) の結果から $a_n - \frac{1}{2} = (1 - 2p) \left(a_{n-1} - \frac{1}{2} \right)$

数列 $\left\{ a_n - \frac{1}{2} \right\}$ は初項が $p - \frac{1}{2}$, 公比が $1 - 2p$ の等比数列であるから

$$a_n - \frac{1}{2} = \left(p - \frac{1}{2} \right) (1 - 2p)^{n-1} = -\frac{1}{2}(1 - 2p)^n$$

よって $a_n = \frac{1}{2} \{ 1 - (1 - 2p)^n \}$

(4) $0 < p < 1$ より $-1 < 1 - 2p < 1$ したがって $\lim_{n \rightarrow \infty} (1 - 2p)^n = 0$

よって $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \frac{1}{2} \{ 1 - (1 - 2p)^n \} = \frac{1}{2}$

(5) $2n$ 回の試行で偶数回 A が起こる確率は

$$\sum_{k=0}^n {}_{2n}C_{2k} p^{2k} q^{2n-k} = 1 - a_{2n}$$

$p = \frac{1}{2}$ のとき $q = \frac{1}{2}$, $a_{2n} = \frac{1}{2}$ であるから

$$\sum_{k=0}^n {}_{2n}C_{2k} \left(\frac{1}{2} \right)^{2n} = 1 - \frac{1}{2} \quad \text{よって} \quad \sum_{k=0}^n {}_{2n}C_{2k} = 2^{2n-1}$$

4 (1) $x = (v_0 \cos \alpha)t$, $y = (v_0 \sin \alpha)t - \frac{1}{2}gt^2$ から t を消去すると

$$\begin{aligned} y &= (\tan \alpha)x - \frac{gx^2}{2v_0^2 \cos^2 \alpha} \\ &= (\tan \alpha)x \left(1 - \frac{gx}{2v_0^2 \sin \alpha \cos \alpha}\right) \\ &= (\tan \alpha)x \left(1 - \frac{gx}{v_0^2 \sin 2\alpha}\right) \end{aligned}$$

$x = l$ のとき $y = 0$ であるから

$$1 - \frac{gl}{v_0^2 \sin 2\alpha} = 0 \quad \text{よって} \quad l = \frac{v_0^2 \sin 2\alpha}{g}$$

(2) (1) の結果から

$$y = (\tan \alpha)x \left(1 - \frac{x}{l}\right) = -\frac{(\tan \alpha)}{l}x(x - l)$$

よって
$$S = \frac{\tan \alpha}{6l}(l - 0)^3 = \frac{\tan \alpha}{6}l^2$$

これに (1) の結果を代入すると

$$\begin{aligned} S &= \frac{\tan \alpha}{6} \left(\frac{v_0^2 \sin 2\alpha}{g}\right)^2 = \frac{\tan \alpha}{6} \times \frac{v_0^4 \cdot 4 \sin^2 \alpha \cos^2 \alpha}{g^2} \\ &= \frac{2v_0^4}{3g^2} \sin^3 \alpha \cos \alpha \end{aligned}$$

(3) $f(\alpha) = \sin^3 \alpha \cos \alpha$ ($0^\circ < \alpha < 90^\circ$) とおくと

$$\begin{aligned} f'(\alpha) &= 3 \sin^2 \alpha \cos^2 \alpha - \sin^4 \alpha \\ &= \sin^2 \alpha (3 \cos^2 \alpha - \sin^2 \alpha) = \sin^2 \alpha (4 \cos^2 \alpha - 1) \end{aligned}$$

したがって, $f(\alpha)$ の増減表は次のようになる.

α	(0°)	\dots	60°	\dots	(90°)
$f'(\alpha)$		+	0	-	
$f(\alpha)$		\nearrow	$\frac{3\sqrt{3}}{16}$	\searrow	

よって, S の最大値は
$$\frac{2v_0^4}{3g^2} \times \frac{3\sqrt{3}}{16} = \frac{\sqrt{3}v_0^4}{8g^2}$$

5 (1) $u = 10^a, v = 10^b$ とおくと $a = \log_{10} u, b = \log_{10} v$

$$10^{a-b} = \frac{10^a}{10^b} = \frac{u}{v} \quad \text{ゆえに} \quad \log_{10} \frac{u}{v} = a - b$$

よって $\log_{10} \frac{u}{v} = \log_{10} u - \log_{10} v$

(2) $\log_{10} 5x^2 - \log_{10}(x+1)^2 \geq 1 \quad \dots (*)$

真数は正であるから

$$5x^2 > 0, (x+1)^2 > 0 \quad \text{すなわち} \quad x \neq 0, -1$$

(*) から $\log_{10} \frac{5x^2}{(x+1)^2} \geq \log_{10} 10$

底 10 は 1 より大きいから $\frac{5x^2}{(x+1)^2} \geq 10$

したがって $x^2 \geq 2(x+1)^2$ ゆえに $x^2 + 4x + 2 \leq 0$

$x \neq 0, -1$ に注意してこれを解くと

$$-2 - \sqrt{2} \leq x < -1, \quad -1 < x \leq -2 + \sqrt{2}$$

$$\boxed{6} \quad (1) \quad f(x) = ax^3 + bx^2 + cx = x(ax^2 + bx + c)$$

$f(x) = 0$ が異なる 3 つの実数解をもつとき, 2 次方程式 $ax^2 + bx + c = 0$ が 0 以外の異なる 2 つの実数解をもつから

$$c \neq 0, \quad b^2 - 4ac > 0$$

$$(2) \quad f(x) \text{ を微分すると } f'(x) = 3ax^2 + 2bx + c$$

方程式 $f'(x) = 0$ の解が $-1, 2$ であるから, 解と係数の関係により

$$-1 + 2 = -\frac{2b}{3a}, \quad -1 \cdot 2 = \frac{c}{3a} \quad \text{ゆえに} \quad b = -\frac{3}{2}a, \quad c = -6a$$

$$\text{したがって} \quad f(x) = ax^3 - \frac{3}{2}ax^2 - 6ax$$

$$\text{よって} \quad \text{極大値 } f(-1) = \frac{7}{2}a \quad \text{極小値 } f(2) = -10a$$

$$(3) \quad (2) \text{ の結果から } f(x) = \frac{1}{2}ax(2x^2 - 3x - 12)$$

$$\text{よって, } f(x) = 0 \text{ の解は } \quad x = 0, \quad \frac{3 \pm \sqrt{105}}{4}$$

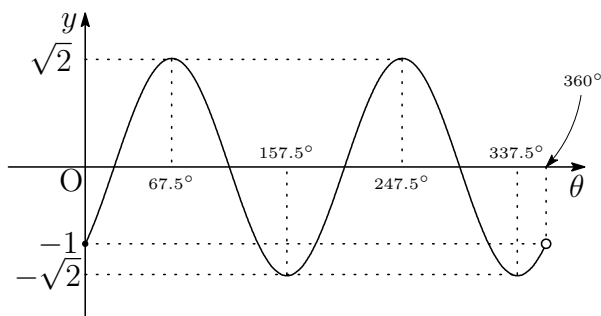
7 (1) a と d の決め方は ${}_6C_2$ (通り), b と c の決め方は 6^2 (通り)
よって ${}_6C_2 \times 6^2 = 15 \times 36 = 540$ (通り)

(2) $a < b < c < d$ のとき ${}_6C_4$ (通り), $a < b = c < d$ のとき ${}_6C_3$ (通り)
よって ${}_6C_4 + {}_6C_3 = 15 + 20 = 35$ (通り)

8 (1) $y = \sin^2 \theta + 2 \sin \theta \cos \theta - \cos^2 \theta$
 $= \sin 2\theta - \cos 2\theta = \sqrt{2} \sin(2\theta - 45^\circ)$

よって $\theta = 67.5^\circ, 247.5^\circ$ のとき 最大値 $\sqrt{2}$
 $\theta = 157.5^\circ, 337.5^\circ$ のとき 最小値 $-\sqrt{2}$

(2) (1) の結果から



9 $y = x^2$ と $y = (x - p)^2 + q$ の共有点の x 座標は

$$x^2 = x^2 - 2px + p^2 + q \quad \text{すなわち} \quad x = \frac{p^2 + q}{2p}$$

$$\alpha = \frac{p^2 + q}{2p} \quad \text{とおくと} \quad G: y = x^2 - 2px + 2p\alpha$$

したがって

$$\begin{aligned} S_1 + S_2 &= \int_0^\alpha \{(x^2 - 2px + 2p\alpha) - x^2\} dx \\ &= \int_0^\alpha (-2px + 2p\alpha) dx \\ &= \left[-px^2 + 2p\alpha x \right]_0^\alpha = p\alpha^2 \end{aligned}$$

$$S_2 = \int_0^\alpha (\alpha^2 - x^2) dx = \left[\alpha^2 x - \frac{x^3}{3} \right]_0^\alpha = \frac{2}{3}\alpha^3$$

$S_1 < S_2$ より, $S_1 + S_2 < 2S_2$ であるから

$$p\alpha^2 < 2 \cdot \frac{2}{3}\alpha^3 \quad \text{ゆえに} \quad p < \frac{4}{3}\alpha = \frac{2(p^2 + q)}{3p}$$

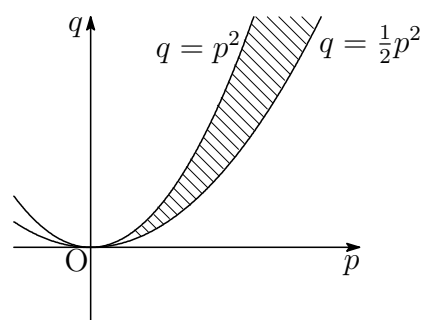
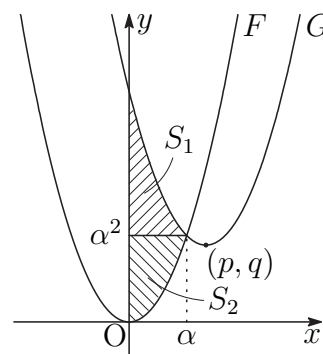
$p > 0$ であるから

$$3p^2 < 2(p^2 + q) \quad \text{すなわち} \quad \frac{1}{2}p^2 < q$$

よって, 点 (p, q) の存在する範囲は

$$p > 0, \quad \frac{1}{2}p^2 < q < p^2$$

をみたす右の図の斜線部分の領域.
ただし, 境界を含まない.



10 (1) $r = |z| \neq 0$, $z = r(\cos \theta + i \sin \theta)$ とおくと

$$\frac{1}{z} = z^{-1} = \{r(\cos \theta + i \sin \theta)\}^{-1} = \frac{1}{r}(\cos \theta - i \sin \theta)$$

ゆえに $z + \frac{1}{z} = \left(r + \frac{1}{r}\right) \cos \theta + i \left(r - \frac{1}{r}\right) \sin \theta$

よって, $z + \frac{1}{z}$ の実部は $\left(r + \frac{1}{r}\right) \cos \theta$, 虚部は $\left(r - \frac{1}{r}\right) \sin \theta$

(2) n を自然数とする.

$$z^2 + \frac{1}{z^2} = \left(z + \frac{1}{z}\right)^2 - 2,$$

$$z^{n+2} + \frac{1}{z^{n+2}} = \left(z + \frac{1}{z}\right) \left(z^{n+1} + \frac{1}{z^{n+1}}\right) - \left(z^n + \frac{1}{z^n}\right)$$

上の 2 式から, $z + \frac{1}{z}$ が実数ならば, $z^n + \frac{1}{z^n}$ は実数である.

また, $z + \frac{1}{z}$ が純虚数ならば, $z^n + \frac{1}{z^n}$ は, n が奇数のとき純虚数, n が偶数のとき実数である.